



3日(金)、城ヶ島にて、第1回理科実験観察講座が行われました。講師は初声小学校の辻先生で、三浦の海浜植物についてのフィールドワークでした。市内の先生方約20名が、熱心に参加しました。猛暑の中でしたが、ハマカンゾウ、ハマゴウ、ハマユウ、ミヤコ



グサなど、多くの植物を観察しました。三浦市の市花であるハマユウは、自生の物がだいぶ減ってきていて、神奈川県では、絶滅危惧1類に指定されているそうです。ハマユウについては、古くは、万葉集で、柿本人麻呂が「み熊野の 浦の浜木綿 百重(ももえ) なす 心はもえど 直ぐにあわむかも」と詠っているそうです。また、海浜植物の花は、花びらと花びらが離れているものが多く、塩分を雨ですぐ洗い流せるようにできている、というのが驚きでした。



7日(火)、名向小学校6年生の有志3名が、小パール隊の事務所で、真珠の核入れのお手伝いをしました。

最初に、湾から上げられたアコヤガイが、口を開けたところに開栓用プラスチックをはさむ作業をしました。

続いて、核入れに挑戦。一人5個ずつ体験させてもらいました。コツをつかんだようで、うれしそうな子どもの表情が見られました。

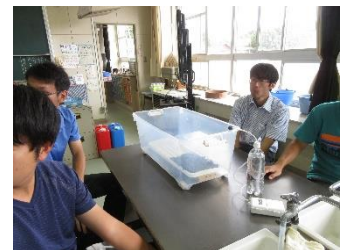


最後に、7月に5年生が核入れしたアコヤガイを、専用の網に固定する作業のお手伝いをしました。網に固定されたアコヤガイは、早速、小網代湾の養殖いかだまで運ばれました。



同じく7日に、第2回理科実験観察講座が行われました。講師は、初声中学校の藪崎先生で、各分野の実験等のヒントを示してくれました。

生命の分野では、顕微鏡の使い方、カニの幼生のプレパレート等が用意されていました。また、化学の分野では、先日、晴海で行われた「海洋教育教員研修」で頂いたマイクロレットを使用して、中和の実験をしていました。食塩水は中性ですが、海水はミネラルなどが含まれるので、アルカリ性であるということも知りました。



地学の分野では、これも、先日の「海洋教育教員研修」で学んだことを応用して、水の働き、地層のでき方の実験を行いました。本研究所で配付したエアープンプが活躍していました。

3月1日より先生方のPC上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というリンクアイコンが存在しています。海洋教育カリキュラムを投稿、閲覧可能なイントラネットサイトです。すでに、20本の実践例がアップされています。皆さんの実践を共有できるように、積極的に投稿、閲覧してください。

(文責 事務局長 渋谷)